平　成　２６　年　度

旭丘中　学校便り

第　７　号　　練馬区立旭丘中学校：発行１１月

特別な人たちの話

校長　山谷　安雄

社会で、法律に触れることを行った者を、国によって、個人の自由を奪うところが刑務所です。最も重い量刑が死刑で、行った罪を自分の命で償うことです。毎年、何人か死刑の判決が出されますが、死刑が執行されるのは、数年後か十数年後が一般的です。日本では、その次に重い量刑は、無期懲役です。終身刑は日本にはありません。

死刑囚と無期懲役囚の心理を研究している方の話です。死刑囚を収容している棟は、いつもものすごく騒然としているそうです。歌を歌ったり、お経をあげたり、隣同士で将棋を指したり・・・。ところが、朝７時に行ってみるとシーンと静まりかえっているそうです。日本では死刑執行の宣告が朝の７時から７時３０分におこなわれ、７時３０分が過ぎると、安堵し賑やかになって今日一日をどうやって過ごすか、最後になるかもしれない密度の濃い一日になるそうです。それに対して、無期懲役囚は、衣食が保証されていて、今日も明日も区切りがなくなります。だから、いま、この一日を生きるという輝きがなくなってしまいます。今日一日どうやって過ごすか暇つぶしを考えるしかなくなるというわけです。ここから、区切りをつけることの大切さがわかってきます。

これは、特別な人の話ですが、一日一日が淡々と過ぎていく毎日について、考えさせられる内容です。今日一日、本当に充実していたのか、もし、明日がなかったら、今日一日は違った生き方をしていたのだろかと考えてしまいます。

命の授業のなかで

１０月３１日（金）の６校時体育館で被害者支援センターの相談員の鷲尾洋子様の話を聞きました。２０年くらい前、交通事故で大事な家族を失い鷲尾さん自身も大けがをされた体験談です。命の尊さを再認識することができた講演会でした。その中で、親の立場で特に印象に残ったのが「親が子供にできる最後の教えは、『死』を伝えることである。」でした。数十年後自分の子供に真正面から教えられるか考えてしまいました。

また、最後に鷲尾様から生徒達に次のメッセージが伝えられました。

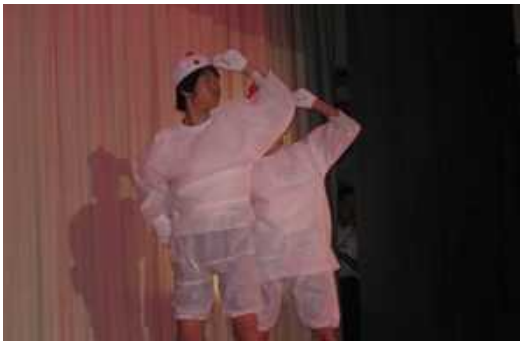
①今に生きよ　②ここに生きよ　③現実を味わえ　宝はそこにある　④百聞は一見にしかず　行動すること　⑤自分の思いをきちんと伝えなさい　⑥悲しみ、怒りも喜びとともに大切にしなさい　⑦自分自身の疑問を大切にしなさい　⑧やったこと、言ったこと、考えたことの責任者はあなた　⑨ありのまま、今のままを大切に

《生徒の活動の様子》
〇文化発表会の舞台の部から

３年生「ラストチャンスは二度やってくる」

１年生「オクリモノ」

演劇部「アイズ」


２年生「チキチキ☆チキンハート」

〇地域防災訓練

１０／１１（土）　防災倉庫前での訓練

Ｄ組「杜子春」

〇部活動
・演劇部　１１／１（土）生涯学習センターホールで連合演劇発表会が行われました。
　審査の結果　練馬区代表に選ばれました。東京都大会は１２月２７日（土）です。
・バドミントン部　新人大会　男子団体　ベスト８　　個人　ダブルス　ベスト８
　　女子団体　５位　ブロック大会　個人　３位　ブロック大会
・吹奏楽部　１１／２青少年育成桜台地区委員会の音楽祭が旭丘中学校の体育館で開かれました。演奏は勿論、運営にも協力してくれました。
〇学校保健委員会
　１０月２９日（水）学校保健委員会が開かれました。一生涯に乳ガンにかかる確率が 14 人に一人という大変高い状況です。検診の受診率は欧米に比べて大変低く、２０％程度で、区としても受診率を上げることが大きな課題であるということです。
《これからの行事》
　１１／１９（水）～２１（金）　定期考査Ⅲ
　　２１（金）　自転車安全教室（午後）スタントマンの方々の教室です。
　１２月上旬は全学年で三者面談が計画されています。